

# TOP インタビュー インタビュイー

interview

物に触れずに内部の様子を調べる画期的な「非接触検査」の技術を持つつくばテクノロジー。主力のレーザ超音波可視化検査装置「LUVI」や手で持ち運べるX線検査装置など実用性の高い機器を次々と開発している。王波社長(55)に展望を聞いた。

(聞き手・原田信彦)  
——主力機器の性能は。

「LUVIは、レーザを対象物の表面に当て、内部の傷や腐食を見つける。レーザが当たった部分は熱で瞬間的に膨張し、そのひずみが波のように周囲に広がる。波は

## つくばテクノロジー

王波 社長



### レーザ機器「上場目指す」

超音波として測定できるのは、熟練者がハンマーで表面で、それを映像化する。例えば、をたたいて耳で聞き分けていば電車の車軸内部の傷の有無 だが、LUVIなら不慣れな

2005年に産業技術総合研究所(つくば市)の所内ベンチャーとして、王社長らがそれまでの研究成果をもとに設立した。現在も産総研などと共同

1960年、中国・陝西省生まれ。西安電子科技大学を卒業し、93年、筑波大大学院に留学。その後、通信総合研究所や産業技術総合研究所で、研究者として勤務。2010年3月に産総研を退職し、社長業に専念している。妻の劉小軍さん(36)も研究者で、同社に勤務する。趣味はスポーツ全般。学生時代はバスケットボールの選手で、現在も卓球などを楽しむ。

ドなど、様々な会社で利用されており、業績は順調だ。昨年3月には東京・日本橋に営業所を開設した。インフラ検査は世界的に需要が見込まれる。中国6社、韓国3社、米国、ドイツ各1社と組み、販路を広げている。会社のホームページは日中英の4か国語で見ることが出来る」

——今後の展望は。

人でも画像で見分けられる。小型のX線検査装置は昨年、製品化した。単3乾電池1本で動き、手のひらに載る世界最小の装置もできた。従来は困難だった、非常に狭い場所での検査も容易だ」

「LUVIは現在、原子力発電所の配管や大手鉄鋼メーカーの材料、航空機のブレーキ」

「3年後をメドに上場を目指しており、市場での認知度を高めたい。昨年度に県いばらき産業大賞で奨励賞を受賞。この10月には国のものづくり日本大賞で優秀賞に選ばれた。知名度アップの追い風になると期待している。従業員も今年度中に30人程度まで増やし『つくばから世界へ』を合言葉に発展させたい」